

293) 恋人は夏の海

砂浜にバイクを止めて	フルフェイス脱ぎ捨てる時
海風は髪に集まり	くびすじを愛撫してゆく
やがて来る夏に向かって	太陽が ^{ほほえ} 微笑みかけた
恋人は夏の海	海風が誘ってる
週末の初夏の空気が	レイバンのグラスに映る
灯台へ続く道には	限りなく海は拡がり
この道は海に尽きても	この愛は終わりやしない
恋人は夏の海	大空に波が舞う
気まぐれな波に抱かれて	ひとときの情事がすぎる
まだ寒い海の ^{しずく} 雫が	冷えきった体をつたう
砂浜は夏の ^{ひざ} 陽射しで	暖かいベッドに変わる
恋人は夏の海	夏の陽が心地いい
砂浜を二つに分けて	足跡が海まで続く
過ぎし日のわたしの恋が	寄せてくる波に消えても
この海と見つめ合ったら	青春に後悔はない
恋人は夏の海	海が好き海が好き